

## 研究論文

## 幼稚園実習における指導案作成の留意点

大 滝 まり子

## Advice for Trainees to Make Good Nursery Plans in Kindergarten

OTAKI Mariko

## 1 問題の所在

保育は子どもの自発性を重視するため、「保育に計画は必要なのか」と論じられた時期もあるが、最近では、「子どもの自発性を育てるために計画が必要である」と認識されるようになって来た。ただし、計画を紙に書く必要があるか、どの程度詳細に書くかは、各園の方針及び実習生や新人保育者、経験豊かな保育者であるか否かで違って来る。一般的に、実習生には、全日の、または部分的な指導計画（以後、指導案と表記）を立てるだけでなく、それを詳細に書くことが求められる。そうすることによって、保育の流れや留意点を把握して保育に入ることが出来るからである。

指導案について、本学では「保育原理」、「幼稚園実習の研究」、「保育実習の研究」など数科目で取り上げられ、実際に書く指導も行われている。それにもかかわらず、指導案の作成は、実習生が難しいと感じる課題の一つである（大

滝、2005、2007）。実習園によっては、子どもと楽しく過ごすことが大切なので、指導案に時間をかける必要はないという場合もあるが、それは少数派である。

子ども理解及び幼稚園教育要領や教育課程の理解を基礎にして、保育内容を選択し、「ねらい」を整理し、保育の流れを予測して書くことは、担当クラスとのかかわりが浅い実習生には、確かに難しい課題である。しかも、実習先により求められる指導案の書き方には様々な違いがあり、指導案作成のための参考書が多数存在するが、作成上の留意点が必ずしも明確ではないように思われる。本研究では、実習生が実際に書いた指導案を詳細に検討して、指導案作成における留意点を示したい。

## 2 研究方法

1) 2007年度に、2年生が幼稚園実習で実際に作成した指導案のうち、園の先生が保育内容や

保育方法を書き加えている10例を調査対象として、全日実習または部分実習のための指導案作成の留意点を検討する。表中の●は園の先生から指導された内容である。

2) 指導案提出と同時に幼稚園実習の質問紙調査を実施して、1)の10人の回答のうち、指導案に関する部分を資料として付加した。

### 3 結果と考察

#### 1) 中心となる活動とねらい

「中心となる活動とねらい」の全10例を表にまとめ、実習生の記述について園が指導した内容を示した。なお「中心となる活動」に付した①～⑩の番号は以後の表中の番号に対応する。

内容としては、製作を取り入れているものが8例である。内容に関する園の指導の過程が最もよく分かるのは④で、実習生が書いた指導案に斜線や追加変更の文字が残されている。最初の活動名「ペンダントづくり」は、それを使った遊びまで含めて「ピヨピヨバスケット」と変更され、ペンダントの絵も、リスとネズミから、ひよことにわとりになり、導入の手遊びとパネルシアターも変更された。変更の理由は不明であるが、変更後の2種類の絵には明確な特

徴があり区別しやすく、また、ゲームでは泣き声を使っていることから、「バスケット」を生かしながら3歳児に分かりやすい遊び方を工夫したためだと考えられる。

「ねらい」は⑧で指摘されているように、その活動を通して子どもに何を伝えるか、何を体験して欲しいかということを書く。選んだ活動のねらいを「・・・を楽しむ」とだけ書くのは、子どもの生活が楽しいものであることが大切ではあっても、発達を支援する保育者の視点としてはやや安易である。事前にその活動を経験してみて、身体的な動きや遊びで工夫を要する点、遊びの特徴などを書き出して、「ねらい」としてまとめることが出来るとよい。また、「ねらい」は複数指摘できる方がよい。一つの活動が子どもの発達の諸側面にかかわっていることを把握するのは大事なことからである。

「ねらい」の捉え方自体を指摘されたのは、子どもの発達とのずれを指摘された⑩だけであった。このほか「ねらい」の表現を指導されたものが3例(③、④、⑤の下線部)あった。

担任との打ち合わせや書き直しの回数は調査項目ではないが、質問紙の自由記述によると、全日実習では内容について打ち合わせを重ねながら、2回から4、5回書きなおしていること

表1 「中心となる活動」と「ねらい」と園の指導

中心となる活動	年齢	ねらいと 園の指導(●で示す)
①カスターネットを作っ て遊ぶ	5歳	自分の製作したカスターネットを使って、音を鳴らしたり、リズムを作ってみることで楽器を使った遊びを楽しむ。
②UFOづくり	4歳	UFOの形をしたコマを作り、くるくるとみんなで回して遊ぶ。
③兎の折り紙製作	4歳	お月見という秋の季節を感じてもらう。 ●お月見を通して・・・
④ペンダントづくり ●ピヨピヨバスケット	3歳	自分だけのペンダントをつくることを楽しむ。●楽しく作る。(追加) ペンダントを使ったゲームを楽しむ。
⑤新聞で作る剣玉	4歳	身近な新聞を使って出来る遊具を作って、楽しく遊ぶ。●遊ぶ
⑥折り染めあそび	5歳	色々な形に紙を折り、工夫しながら色や模様を楽しむ。
⑦ペンダントづくり、 動物バスケット	5、 6歳	ゲームを通して、ルールを守る大切さを学ぶ
⑧手遊び、パネルシア ター鑑賞	4歳	(ねらいを書くべきところに、記入がない) ●実習を行うにあたって、先生の目標、ねらいを考えてください。子どもにどんなところを楽しんでいるのか?自分がパネルシアターや手遊びをする中での目標は?
⑨ペープサートクイズ	3歳	ペープサートクイズを通し、誰が隠れているかを考え、楽しく歌を歌う。
⑩絵本「じゃんけん」 を見る	3歳	じゃんけんには勝ち負けやあいごがあることを確認し、友達と楽しさを味わう。 ●(付記) これは、もう知っています。

が分かった。

## 2) 子どもの姿の予想

実習生は子どもに応じた援助・指導をおこなうため、まず子どもの姿・動きを予想しておかなければならない。予想される子どもの姿を何種類くらい書くかは、活動の内容や子どもの発達にもよる。表2の「子どもの姿の予想」では、実習生の記述で「予想」が不十分な点について、実習園の先生が指導した内容を例示している。指摘のない2例(⑨⑩)中、⑩は手遊びの際の子どもの様子をいくつか予想して書いているため、特に指摘がないと考えられるが、⑨は、「先生の手遊びを見て、まねをしてやってみる」という記述だけで子どもの姿の予想はわずかである。

子どもの反応を予測すると、それに対する「実習生の動きの予想」を考えることが次の課題となる。例えば①では、製作の過程で子どもが迷う場合を予想すると、実習生の準備やことばかけのしかたが変わってくる。このほか、④、⑥のように、製作では出来上がりの遅い・早いがよくあることなので、対応を準備しておくことが必要である。これらの例から明らかなように、

2) 子どもの姿の予想は、次の3)と関連させて見る必要がある。

実習生はクラスが2、3日ごとに変わり、長くても1週間くらいであるため、担当クラスの子どもの現状を理解してから指導案を書くというわけにはいかない。従って、一般的な子どもの発達段階と発達課題を理解しておき、事前に当該クラスの教員と十分打ち合わせをすることが必要である。

## 3) 実習生の動きの予想

ここでは、実習生が何を話し、どう動くかの予想を見ておきたい。

実習生は、子どもの反応を十分に予測できない。したがって自分の行動の予想でも、一方的に話したり、無駄な動きをしたり(⑤の先生の動き)、必要なことをし忘れることがある(①のセロテープ、④の鬼決め、⑤の剣玉に名前をつけることなど)。時には実習生にとって自明のことであるため書かない場合もあると思うが、書くことで自分の動きを把握しておける。また、園の先生の指導を受けるためにも、自分の準備状況を詳しく提示できた方がよい。

製作をする場合は、試作して、分かりやすく

表2 子どもの姿の予想

番号	実習生の予想した「子どもの姿」についての園の指導(●で示す)
①	(カスタンネットに絵を描くとき) 何を描けばいいかわからない子がいる。 ● (追加) ゆっくり時間をかけて(動物の) 耳を選ぶ子がいる。
③	(実習生が見せたうさぎの見本には、はじめから目や手を描いてある) ● 「ボクのに描いてない！」と不安になる子がいるかも・・・
④	(製作について) ● 出来た子は何をしていますか
⑤	(朝の会について、子どもの姿の予想を書いていない) ● ふざけている子がいる、・返事を上手にしているなど具体的に書かなければいけません。 先生の質問にどんどん答えている。 ● どのように? 呼ばれていないグループの子がいる。 ● 待っている子の予想がありません。
⑥	手を上げて手伝いをしてくれる ● 手伝いたい子がたくさん出てくるかもしれない(ので対応を考えておく)。 (出来上がりについて) ● 作る早さの差も出てくると思われるので対応を考えておく。
⑧	(パネルシアターが終わったとき) ● 子どもの動きは?
⑨	(手遊び) 先生の手遊びを見てまねをしてやってみる
⑩	(手遊び) 自分の手を使い、グー、チョキ、パーを作り、実習生に見せる。 大きな声で問いかけに答える。手遊びの途中で飽きて、子ども同士で私語をしたり、集中できていない子もいる

無駄のない手順を把握しておくことが必要である。時間についても、子どもの年齢にもよるが教師から伝えるのではなく、子どもたち自身が判断できるように、指導することが求められる(②、⑦)。

⑧では、(次頁事例5参照) 子どもたち一人ひとりの感想を引き出すために、質問の仕方を工夫することが求められている。ここに指摘さ

れている通り、「楽しかった?」と訊けば、子どもたちはそのまま「楽しかった」と答えるであろう。これでは実習生の自己満足に終わってしまう。

⑩では絵本の読み方について指導されている。絵本読みでは、内容を振り返るのはよいが、感想については教師や保育者が批評を加えないことが大事だという考え方が多い。感想を聞か

表3 実習生の動きの予想

番号	実習生の動きの予想に対する 園の指導 (●で示す)
①	(製作のとき) ●ゴミは各自で捨てるように伝えるとよい。 ●セロハンテープの長さを分かりやすく伝えるとよい。
②	UFOを作るとき、宇宙人を見せるだけでなく●宇宙人から子ども宛に手紙等があると、ますます盛り上がると思う。 ●UFOを作る手順について 5)表現 で詳述 (模様を思い浮かべない子に) ●たくさん見本を用意しておいて見せてあげるとヒントになる 材料に模様をつけるとき ●模様を描くのは皿の部分だけと言うことをしっかり伝える。
③	月見に関する絵本を読む。 ●何!? はさみを切る方を人に向けて持ち歩いてよい? ●はさみにサックがついているので、特に伝えていなかった。反省。(筆者注 ここには涙マークがついている) 裏にのりをつけてから先生のところに持ってきてね。 ●個人指導かな。お友達の設定を生かそう。 そろそろお片付けしてね。 ●完璧に全員片付けていなければならないわけではないので、「やっているお友だちはゆっくりでいいよ」
④	遊んでいないか、ぬれているか机を回る。●塗り終わった子からクレヨンを片付けます。 フルーツバスケットの要領で。 ●鬼は誰がしますか。
⑤	●作ったものを先生のところに持ってきてもらうよりも、先生がテープを持ってグループのところに行った方がいいます。そうすると、できていない子にも同時に声をかけ、見ることができます。(子どもを動かさずぎと、手がまわらなくなります) (材料について) ●新聞はいつ取りに来てもらいますか? (作り終わって) ●剣玉に自分の名前は付けないのですか。
⑥	(お手伝い、出来上りのときなど) ●子どもたちへの対応を考えておく
⑦	●パネルシアターからペンダント作りにいくのにつながりが伝わりません これから作ったペンダントを使いゲームをすることを伝え、期待が持てるようにする。 ●あまりにも急ぎすぎ。自分の動物、他のグループの動物を確認する。 ルールを理解していれば、全員で練習として何回か行う ●最初の2,3回は教師が真ん中に立って行い、ゲームに慣れるようにしていきましょう。 (ゲームのときの)約束を作る。 ●子どもに約束があることを伝え、どのような約束か問いかけて、子どもから引き出せるようにする。 片付けの時間を知らせる。 ●片付けの時間に子どもが気づけるようにする。 (昼食) 頑張って食べれるように声をかける。 ●子どもが残すのか残さないのか、どのくらい食べればよいのかの判断は、私がします
⑧	「手遊び」とだけ書いたところ ●何の手遊びですか。何種類しますか。 手遊び終了後パネルシアターを見るとき ●どのようにお話をし始めるつもりですか。 パネル台とパネルシアターに必要なものを片付ける。 ●子どもの動きは?どのように、どこに片付ける予定ですか。
⑨	(朝)じゅうたんに集まるよう呼びかける。 ●全員集まるまで手遊びをする (絵本)「次は絵本を読むよ」と伝える。 ●言わなくてよい。読み終わったら「これで絵本はおしまい」という。
⑩	絵本を見る。 ●子どもたちの読後感を聞いてください。どうやって引きだすのか書いて下さい。 ●子どもにどうだったかと問いかけてから、その答えにつなげて「僕の大好きな食べ物は何だったのか」等内容を振り返る。

ず、子どもの自由に任せるのが一番であるという考えも根強い。しかし、教師の視点で感想を方向づけるのでなければ、子どもたちの感想を聞くことに問題はないと思う。ただし⑩におけるこの点の指導は不明である。

#### 4) 環境構成、材料の準備など

部分実習や完全実習では製作に取り組むことが多い。そのため、材料や道具、製作場所の設定が必要になる。環境構成（空間の構成、物や人の配置、雰囲気など。特に子どもの座り方や実習生の位置）は、10例全部で図示しており、製作中と遊ぶときなど、活動ごとにいくつか示した例もある（①、⑧、⑨）。また材料、教材の種類を明記したのは9例である。材料は多めに用意すること、複数枚渡すときには、予めセットを作っておくことなども指導されている。なお、質問紙調査によれば、製作では見本も求められている。

#### 5) 表現と用語

##### (1) 子どもに分かりやすい表現

文法上の間違い、誤字脱字の訂正も大切であるが、ここでは保育の特性に関わる「指導のための表現」について検討する。なお表中の②③等は、表1の②③等に対応している。

**事例1** ②実習生は、作り方を4段階で説明して製作を始めることにしていたが  
→指導：（製作手順を変更して、それを具体的に記述し）まず 1, 2の説明をして1, 2のみ行いましょう。できたら 手はおひざ。大体終わったら全員一度前を見て、しっかりと3のお話を伝えてから3を行った方がいいと思います。

**事例2** ③実習生は「実は今日うさぎさん、お月見しようと思ってらんだって。でもまだ誰も来てなくて、淋しいらしいの。」としたが、  
→指導：「今日はみんなでお月見しようと思うんだ。お友達来てるかな？」  
「アレレ？いないよ！！みんなどこ??」  
「お友達がいなくて淋しいよ~~~~えーん。」

事例1では、少しずつ確認しながら進めることで、遅れたり、勘違いしたりしたまま作り進めることのないように配慮している。製作の時には、是非、このようにポイントごとに全員の進み具合を確認したいものである。

事例2の指導の文が、短く「」で区切られているのは、子どもたちの反応を「確認」しているためである。実習生の表現が説明的なのに対して、先生が書いた方は、「問いかけ」の表現で子どもの関心を引き出そうとしている。問いかけることで、子どもたちが自分で考え、先生から示された課題を自己課題化する。

ところで、文章は先生の書いた通り引用したが、事例2のように実習生がことばを伸ばす部分に波線を使えば、訂正の対象になるのではないだろうか。

##### (2) 子どもの見方

**事例3** ④実習生：みんなより遅い子がいる。  
→指導：少し差別しているような表現なので、違う方がいいかなと思います。

「遅い」と言う否定的な印象の言葉に注意を向けさせているが、どうすればよいかは書いていない。子どもに直接向けられている言葉ではないが、表現の前提にある子ども観に疑問を持って、指導したのだと思われる。

##### (3) 子どもの言葉を引き出す

**事例4** ③実習生：「ピンクは10枚しかないんだけど、お友だち10人以上いるよね。どうしたらよいかな」  
→指導：「ピンクは10枚あるんだけど、お友だちは何人いるかな」

**事例5** ⑧実習生：パネルシアターが終わったら、子どもたち全員に楽しかったか聞いてみる  
→指導：多分「楽しかった？」ときいたら、「楽しかった〜！」と答えると思います。定型文のように。

事例4において、人数分の紙がない事態で、子どもに問題点をどう気づかせるか。実習生は



「困った」ことを説明しているが、園の先生は、問いかけて考えさせている。

事例5では、こどもの反応を引き出せる質問の仕方が問われている。「楽しかった?」という質問は、質問者の自己満足的な答えしか引き出せないことが多い。「どうだった?」というのも、答えるのが難しい問いかけである。本当に子どもの反応を知りたいなら、どこが面白かったか、出てきた動物のどれが好きかなどを訊いた方がよい。

表現について、ここまで見てきて気づくのは、園の先生の指導には、「問いかけ」と「確認」がうまく取り入れられていることである。問いかけにより興味・関心を引き出し、また、子どもがどうしているのか、話が伝わっているのか「確認」を怠らない。実習生が指導案を書く場合にも、自分に向けられている子どもの目を意識しながら、「問いかけ」と「確認」を取り入れるように指導の流れを構成して欲しい。

#### (4) ことばの選択、用語

特別な用語指導を、以下に例示する。

- ③見える位置に移動していいですよ、どうぞ。  
→お引越し
- ③席→お席、⑤グループ→グループさん、
- ⑦お眠りのポーズ など

このほか③では「お椅子」も使われており、過剰な丁寧表現が一部の園で使用されていることが分かる。こうした言葉遣いが保育に必要なとは思えないが、実習生はその園の文化を取り入れて指導案を書かねばならない。せめて短大では日常の言語生活を大切にして適切な日本語を使えるように指導したい。

#### 6) 10人の質問紙調査の結果

「その他」の自由記述に見られるように、話す言葉を書くか否かは、園によって全く異なっている。前述したように、詳細な準備をして、

清書のときに削るのがよいと考える。

表4 指導案の作成上の注意

指導された内容	人
指導案の意義について説明あり	6
詳しく書くように言われた	8
図を入れるように言われた	6
製作の場合見本を作るように言われた	7
保育内容と子どもの発達とのずれを指摘された	4
誤字・脱字を指摘された	5
用語・文章表現について指摘された	6
保育内容を指定された	2
ねらいについて指導された	4
その他 (内訳)	3
話すことばは書かないように言われた	
話すことばも書くように言われた	
絵本の読みかきかせが多かったと言われた	

## 4 まとめ

1) 本研究では、実習生の書いた指導案と園の先生が書き加えた指導内容を検討した。その結果実習生の書いた内容と、先生の指導内容には3つのちがいがあると考えられる。それがそのまま、よい指導案を書くためのヒントになると思われる。

- ① 先生は子どもが課題に興味や関心を持つような質問をするのが上手である。
- ② 先生は子どもにどう話すかを準備しており、話が伝わっているか、子どもが今何をしようとしているかを確認している。
- ③ 先生は子どものさまざまな行動を予測し、それへの対応を準備している。

2) 指導案をどの程度詳細に書くかは園により基準が異なる。しかし、実習生自身が実践で少しでも適切に動けるようにするためには子ども理解を前提として、環境構成・手順・話す内容などを十分準備しておくことが望ましい。不慣れなうちは、指導案がなければ、臨機応変に動くのでなくて、その場その場の対応に追われるということになりかねない。

子どもに対して行ったことには、すべて子どもの反応がある（無反応ということも含めて）。従って、子どもに伝わっているか否かを確認し、子どもの行動に対応する準備が必要になる。園の教師の指導は「問いかけ」と「確認」をうまく取り入れている。この点を実習生は参考にして欲しい。

予測したことを指導案として文章化するには日頃の訓練が必要である。学生自身が読書、作文に日常的に取り組むとともに、短大としてはレポート指導を強化する必要がある。

3) 保育の教材は身の回りに無限にあるが、特段の準備なしに日々の保育内容を選ぶことは、実習生には難しい。従って、各年齢に対応する保育内容をノートやファイルに整理しておくこと、見本製作をしておくことなどは日ごろから取り組んでおくべきである。保育の教員として、こうした日常の取り組みを促すとともにグループ単位で模擬保育を行うなどの授業の工夫をさらに追究したいと考える。

## 参考文献

- 大滝まり子 保育所実習Ⅱについての学生の認識 北海道文教大学研究紀要第29号 2005  
大滝まり子 幼稚園実習と保育所実習の比較 北海道文教大学研究紀要第31号 2007  
柴崎正行／戸田雅美編 新・保育講座 教育課程・保育計画総論 ミネルヴァ書房 2001  
森上史朗・吉村真理子・阿部明子・高杉自子編 保育講座 教育課程 保育計画総論 ミネルヴァ書房 1999

(2008年1月24日受稿)

### **Abstract**

Making nursery plans is an important and a difficult task for the trainees. In this study three differences are found between the trainee's plan and the teacher's guidance. And the following three suggest how to make a good plan. (1) Teacher makes good questions so the children will be interested in the task. (2) Teacher prepares her talk for the children, besides makes sure whether the children understand or do not understand her explanation. (3) Teacher imagines many behaviors of the children and she can imagine how to deal effectively with them.